



イギリスの医療機関は、National Health Service (NHS) と呼ばれる国営医療機関の病院が9割を占め、残りがプライベートと言われる私立病院である。（日本では約6割が民間の病院）

前者は、国民の税金で運用されているため受診、入院した際の医療費は基本的に全額無料、それに対しプライベート病院は全額自己負担である。

まず、イギリスの国民はGeneral Practitioner (GP) と呼ばれる地域のホーム・ドクターに患者登録しなければならない。そしてGPに登録すると、歯科的疾患を除いてまずはGPを受診する。GPのできる医療行為は限られており、例えば採血、点滴、レントゲン、超音波などはGPで行われることはなく、それらが必要と認められれば総合病院、各専門科の診療所などの二次医療機関へ紹介される。イギリスでは診療待ち・手術待ち時間の長さについて話題に上がるが、改善されてきているもののまだまだ長いようである。

2007年

## ロイヤルデボン ・エクセター病院 に訪問して



- ・ 中規模の教育研究病院で地域の主軸病院
- ・ 国営医療機関の病院である。
- ・ 750ベッドを有する。
- ・ 05/06年の活動状況
  - 〈入院患者&日帰り入院〉 112,445人
  - 〈外来患者〉 253,502人
  - 〈救急治療〉 62,591件
  - 〈出生数〉 2,972人
- ・ 広大な敷地で35万㎡(10.6万坪)が管轄地域である。



院内の感染対策として清掃が重要な役割を担っていると認識されており、関心の高い項目であるということを実感した。

清掃方法は、クロストリジウムによる感染対策の考えからクロスは1ベッド使い捨て、モップもディスポのものを使用するなど、IGTが調査し推奨する方法で実施していることに驚き、病院全体で清掃に取り組んでいることがわかった。

何度か海外を訪問するなかで、特に今回は清掃スタッフの責任について考えさせられた。

スタッフへの教育・研修を行った場合には本人にも教育を受けたことについてサイン、予防接種で本人が受けたくないということであれば受けなくても良いがそれを本人の意志であることをサインで示すなど清掃スタッフにも責任を持たせていた。

清掃について病院を訪問し、実際行っていることを目にするることによって得られたことが多くあった視察であった。

イギリスでは、院内環境について関心が高く、多くの文献等が発表されることから、今後も注目していきたい。

日本では、病院清掃について周囲の関心の高さを感じられることは少ないが、感染対策等の高まりから清掃への関心を高めるとともに、清掃の重要性について訴え続けなければならない。